

第6回国際平和博物館会議 分科会プログラム

分科会会場

- A 中野記念ホール(アカデミア立命21 1F)
- B アカデミア201(アカデミア立命21 2F)
- C アカデミア202(アカデミア立命21 2F)
- D アカデミア301(アカデミア立命21 3F)

会議第1日目 - 10月6日(月曜日)

13:30-15:00

会場A 分科会 1- -A 「ピースリテラシーを育む」

- 1 村上登司文(京都教育大学)
「実践的な平和教育を支えるための平和博物館とは何か - ピース・リテラシー = 平和形成力育成の観点から」
 - 2 William Shaw(クロスカレント国際研究所、アメリカ)
「Last night I had the strangest dream - 戦争を無くすという夢に向かって」
 - 3 Faye Ruck-Nightingale(サハジーバナ共生センター、スリランカ)
「サハジーバナ共生センターの取り組み」
 - 4 Anatoly Ionesov(平和と連帯の国際博物館、ウズベキスタン)
「平和構築のための展示品 - 文化を超えた対話のために - 」
- 司会 Dae-Hoon Lee (平和博物館建設推進委員会、韓国)

会場B 分科会 1- -B 「平和博物館を検証する」

- 1 Huynh Ngoc Van(ホーチミン市戦争証跡博物館、ベトナム)
「平和に向かって - ベトナム戦争証跡博物館の活動」
 - 2 山口亮(オーストラリア国防アカデミー、オーストラリア)
「現代的紛争と平和と地域的視点で予測する - 東アジア地域を事例として」
 - 3 Sajid Ishaq(貧困の根絶をめざす超宗教派同盟、パキスタン)
「未定」
- 司会 吉田俊(ウエスタン・ミシガン大学、アメリカ)

会場C 分科会 1- -C 「平和博物館の開設運動」

- 1 Felicitia Tina Levati(ミラノ平和博物館コミュニティ、イタリア)
「イタリア・ミラノから - 平和博物館をつくるために」
 - 2 Alhaji Sanfa Mansaray(マジアンディ平和財団、西アフリカ)
「ジェンダー、平和、発展のためのプロジェクト - シェラレオネ・リベリアの貧困と紛争の只中で」
 - 3 Yeong-Hwan Kim & Jin-Woo Joo(平和博物館建設推進委員会、韓国)
「平和の感受性をそだて、日常を変える平和博物館 - 韓国の経験から」
 - 4 Maria E. Villarreal(国際平和研究学会、グアテマラ)
「紛争後の社会における「和解」の空間としての平和ミュージアムの役割 - グアテマラの場合」
- 司会 山根和代(高知大学)

15:20 - 16:50

会場A 分科会 1- -A 「過去を共有し、未来を築くための学び」

- 1 岩下美佐子(元中学校教師)
「子供たちに希望と創造性を与える平和教育とは何か」
 - 2 Joyce Apse(ニューヨーク大学、アメリカ)
「カリキュラムの重要性 - 平和、社会正義、人権を教室で教えるための最新情報と提案」
 - 3 Alexis Lyras(レイヴール大学、アメリカ) & Eleni Kotziamani(Dovers Olympic Movement、キプロス)
「オリンピック精神と発展 - 民族を超えたコミュニティによる取り組みの考察」
 - 4 Edward W. Lollis(元米国外交官、アメリカ)
「情報技術を活用して世界各地の平和の記念碑・記念空間をネットする」
- 司会 村上登司文(京都教育大学)

会場B 分科会 1- -B 「平和の文化」を育てる」

- 1 Katherine Josten(グローバルアートプロジェクト、アメリカ)
「平和のためのグローバルアートプロジェクト - 平和教育の手段として」
 - 2 Tom Verner & Janet Fredericks(国境なき奇術師団、アメリカ)
「国境なき奇術師団 - 忘れられがちな戦争難民への創造的対応」
 - 3 岡村幸宣(丸木美術館)
「(原爆の図)のある空間から - 丸木美術館で考える芸術から平和への可能性」
 - 4 ロニー・アレキサンダー(神戸大学)
「平和博物館を想像と創造、わかちあいの場に - ボーボキ平和プロジェクトから学んだこと」
- 司会 秋林こずえ(立命館大学)

会場C 分科会 1- -C 「市民でつくる「平和のための空間」」

- 1 浅川保(山梨平和ミュージアム)
「山梨平和ミュージアム開設の意義と課題」
 - 2 乗松聡子(ピースフィロソフィーセンター、カナダ)
「世界中に「平和のコピニ」をつくらう」
 - 3 きくち ゆみ(平和省プロジェクト)
「千葉県鴨川の自宅に開いたハーモニクス・ライフセンター」
 - 4 岡村正弘(平和資料館・草の家)
「創立20周年をむかえる高知の「草の家」の経験」
- 司会 日高昭子(博物館研究者)

17:00-18:30

会場A **分科会 1- -A 「ヨーロッパにおける平和博物館の挑戦」**

- 1 Roger Mayou (国際赤十字・赤弦月博物館、スイス)
「国際赤十字の運動と2008年未来計画の展示」
- 2 Erik Somers (オランダ戦争関連文書研究所、オランダ)
「欧州統合がオランダの平和・戦争系博物館にどのような影響を与えているか」
- 3 Aina Florin (ウプサラ平和博物館、スウェーデン)
「未定」
- 4 Iratxe Momotio (ゲルニカ平和博物館、スペイン)
「バスク紛争はゲルニカ平和博物館でどのように展示されたか」

司会 山根和代 (高知大学)

会場B **分科会 1- -B 「平和教育の拠点として平和ミュージアム」**

- 1 Betty Reardon (国際平和研究会、アメリカ)
「国際平和教育における平和ミュージアムの役割」
- 2 秋林こずえ (立命館大学)
「自立した学生の学びのエージェント・空間としての平和ミュージアムの発展」
- 3 Syed Sikander Mehdi (元カラチ大学、パキスタン)
「平和ミュージアムへのジェンダーアプローチ - パキスタンにおける女性平和博物館」
- 4 Nitza Escalera (フォード大学法科大学院、アメリカ)
「都市の中の平和ミュージアム - インターアクティブ・コミュニティーの平和教育」

司会 Betty Reardon (国際平和研究会、アメリカ)

会場C **分科会 1- -C 「ピースサイトとピースツアー」**

- 1 野平晋作 (ピースポート)
「日本のあり方を問う世界のピースサイト - 国際交流の船旅の経験を通して」
- 2 藤岡惇と受講生有志 (立命館大学) & 乗松聡子 (ピース・フィロソフィーセンター、カナダ)
「被爆地の博物館を拠点に34名の日米カナダの学生たちは何を学んだか」
- 3 Roy Tamashiro (ウェズスター大学、アメリカ)
「ピース・リテラシーを育むための大学と博物館の連携」
- 4 Peter Nias (ブラッドフォード平和博物館、イギリス)
「街の中の平和の径 - その使い方と作り方」

司会 福島在行 (平和博物館研究者)

会議第2日目 - 10月7日(火曜日)

10:30-12:00

会場A **分科会 2- -A 「紛争後の和解と平和をめざす活動」**

- 1 Preeti Shankar (City Montessori School, Lucknow, インド)
「インドとパキスタンの間の和解のために - 学校による取り組み」
- 2 殿平善彦 (笹の墓標展示館)
「東アジアの和解と平和のために - 朱鞠内「笹の墓標展示館」の活動」
- 3 村本邦子 (こころからたで歴史を考える会、立命館大学)
「南京虐殺の過去を共有し平和な未来を築く - 演劇とドラマセラピーによる体験の心理学の手法を使って」

司会 君島東彦 (立命館大学)

会場B **分科会 2- -B 「虐殺・捕虜・戦犯たちの経験を伝える博物館」**

- 1 芹沢昇雄 (中帰連平和記念館)
「NPO中帰連平和記念館と撫順の奇蹟を受け継ぐ会の活動について」
- 2 バトリック・ワグナー (鳴門市ドイツ館)
「1000名のドイツ兵を収容した板東俘虜収容所をドイツとの友好の場に変えた経験」
- 3 Phan Van Do (マディソンクエーカーズ、ベトナム)
「戦争と平和、憎しみと和解」
- 4 高實康稔 (岡まささはる記念平和資料館)
「被爆地長崎に日本帝国の侵略戦争責任を問うミュージアムを開設して」

司会 藤岡惇 (立命館大学)

会場C **分科会 2- -C 「戦争博物館・戦争遺跡をどう活用するか」**

- 1 長谷川順一 (東京戦争遺跡を歩く会)
「靖国神社・遊就館は平和を語る事ができる第一級の戦争遺跡」
- 2 Clive Barrett (ブラッドフォード平和博物館、イギリス)
「汝の敵を愛せよ - 平和教育における軍事博物館との協力」
- 3 Jaromir Hanak (ブルノ博物館、チェコ)
「アウステルリッツの三帝会戦(1805年)を素材に戦争の真実を描く」
- 4 南守夫 (愛知教育大学)
「日本における戦争博物館の復活と平和博物館の課題」

司会 原田敬一 (仏教大学)

会場D **分科会 2- -D 「合唄・アートと平和の構築」**

- 1 長田寿和子&川畑康郎 (JEARN・ねがいコネクション、あくまで平和な合唱団)
「平和創造と音楽の役割 - 言葉の壁を音楽で超えた「ねがい」の経験」
- 2 山内豊 (ニット作家、アトスボットかくあむ)
「『書く』『編む』という伝えかた」
- 3 Marcela Montes (故フェルナンド・モンテス画伯の妻、イギリス)
「ボリビアの画家フェルナンド・モンテス(Fernando Montes)の平和のための画業」
- 4 Myong-Hee Kim (ピースマスク・プロジェクト)
「みんなの顔を「ピースマスク」に表現して、平和の樹を育てよう」

司会 池尾靖志 (京都精華大学)

15:30-17:00

会場A **分科会 2- -A 「怨念から相互理解へ、そして昇華へ～小松構想をめぐって」**
「小松昭夫氏(人間自然科学研究所長)による「平和・環境・健康」を基本的価値とする世界構築の展望
「小松構想」を手がかりに、戦争によってもたらされた「対立と怨念」を「和解と共生」に転換する道を探る」
司会 安斎育郎(立命館大学)

会場B **分科会 2- -B 「写真は戦争・平和をどう表象できるか」**
1 村山康文(報道写真家)
「ベトナム・戦後報道を平和博物館における写真の役割」
2 Tsao Chin-Jung (Taiwan Art-In Design & Construction Company, 台湾)
「平和の文化を創るために - 物語りと歴史解釈のはざままで」
3 小林美香(写真論研究者)
「写真を「読む」視点について考える」
4 Richard Fitoussi (Witness Photography, Year Zero, カナダ)
「コメント「写真力」について」
司会 岩間優希(立命館大学)

会場C **分科会 2- -C 「日本の戦争・平和展示の現在」**
1 原山浩介(国立歴史民俗博物館)
「戦争経験」に依存することの難しさ - 戦争展示の今日的課題」
2 山辺昌彦(東京大空襲・戦災資料センター)
「戦争・平和展示の現況と平和のための博物館・市民ネットワークの役割」
3 山根和代(高知大学)
「日本の平和ミュージアムの活動に市民団体が果たした役割 - ビースおおさかの事例を中心に」
4 二橋元長(「平和のための戦争展」交流ネットワーク事務局)
「全国の「戦争展」運動の現状と課題」
司会 福島在行(平和博物館研究者)

17:10-18:40

会場A **分科会 2- -A 「内戦の過去を克服する」**
1 Richard Fitoussi (カンボジア地雷博物館救済基金, カナダ)
「内戦の犠牲者アキラが作った地雷博物館を支援して」
2 Kalyan Sann (カンボジア史料センター博物館・記念碑チーム, カンボジア)
「記憶を記録する - 正義と和解のために」
3 Kunda Dixit (ネパール・タイムス, ネパール) & 鎌田陽司 (NPO法人開発と未来工房)
「ネパール内戦の傷を癒す空間 - 「平和のための安息の場」を作る」
4 Karen Knipp-Rentrop (ルワンダ博物館研究所, ルワンダ)
「ルワンダの内戦 - 平和ミュージアムにとっての平和教育の必要性」
司会 池尾靖志(京都精華大学)

会場B **分科会 2- -B 「核兵器・核被害と平和博物館」**
1 安田和也(第五福龍丸平和協会)
「第五福龍丸は今も航海中 - 第五福龍丸展示館からの発信の意義と課題」
2 SuZen (Universal Peace Day Initiative, アメリカ)
「イメージの力 - 恐怖から癒しへ」
3 Balkrishna Kurvey (ノーモア広島・ノーモア長崎平和博物館, インド)
平和教育の手段としての平和博物館の可能性 - インドにおける展望
4 小林康司(ヒロシマ・イニシアチブ, 被爆者)
「ヒロシマ・イニシアチブの活動紹介」
司会 君島東彦(立命館大学)

会場C **分科会 2- -C 「聞き取り・記録・つながり - 日本軍「慰安婦問題」を中心に」**
1 池田恵理子(アクティブミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」)
「日本軍による「慰安婦」被害を記録し、記憶するために」
2 村山一平(ナムムの家歴史館, 韓国)
「ナムムの家のハルモニたちの活動」
3 Julie Obermeyer (ブラッドフォード平和博物館, イギリス)
「聞き取りによる歴史」を - ブラッドフォードの事例」
司会 池内靖子(立命館大学)